

## 統合失調症の新薬研究

### 島根大とベンチャー共同で

島根大学は免疫障害による統合失調症の治療法を開発するため、薬の研究開発を手がけるベンチャー企業「RESVO(レスボ)」（東京都大田区）との共同研究講座を医学部に設けた。講座の開設期間は3年。新たな治療薬の開発を目指す。【山田英之】

島根大は民間の研究開発力を大学の研究に生かすため、共同研究講座を設置しており、今回が2例目。レスボは2015年に設立し、検査薬の研究開発や実験補助、特許管理などの事業を展開している。基礎研究費約3000万円をレスボが負担する。

統合失調症は精神疾患の一つ。幻聴や幻覚などの症状があり、約120人に1人の割合で発症するといわれ

る。発症原因は分かっていないが、統合失調症の一部は、免疫障害に由来することが分か

っている。研究講座では、島根大医学部の大西新特任教授や宮岡剛准教授らがレスボと、免疫障害による統合失調症を根本から治すための検査薬や治療薬の開発に向



共同研究講座を設置した服部泰直・島根大学長(左)と小林宣文・RESVO代表取締役(右)出雲市の島根大医学部で

けて、マウスを使った基礎研究や臨床試験をする。大西特任教授はレスボの取締役も兼ねている。

服部泰直・島根大学長は「共同研究講座が統合失調症で苦しむ多くの患者の希望と

なり、光になる治療の研究開発に貢献できればと願っている」と語った。レスボの小林宣文代表取締役は「統合失調症の根治に向けて、一丸となって頑張りたい」と述べた。